



表紙の写真

越谷レイクタウン

埼玉県越谷市
越谷レイクタウン地区

平成20年3月、越谷レイクタウン駅の開業に合わせ、JR武蔵野線北側の一部エリアがまびらきました。「新しく水との共存文化を創造する都市」を目指すレイクタウンの特徴である広い水辺「大相模調節池」や北口駅前広場、見田方遺跡公園などが完成し、平成25年度の事業完了に向けて基盤整備が進められています。

※ アンケートを実施しています ※

同封のはがき、及びUR都市機構のホームページにて、本誌に関するアンケートを実施しております。ご意見、ご感想をお寄せください。

…………… 編集後記 ……………

今号では、「暮らしやすい都市の未来へ向け」をテーマに、UR都市機構が取り組んでいる事業や今後の展望についてご紹介させていただきました。

現在、地球環境について国、自治体、企業、市民と人類すべてが真剣に取り組むべき時代に来ています。「都市再生」「住環境」「災害復興」「郊外環境」とUR都市機構が取り組む事業フィールドにも、自然との共存が深く結びついています。その様な背景を踏まえ、「第4回都市再生フォーラム」では、これからのUR都市機構は何をすべきか、改めて認識し課題をクリアするための方法を模索する場となりました。

ご高覧いただければ幸いです。

季刊『ユアールプレス・秋号』
Vol.17(2008年10月)

発行 / 独立行政法人都市再生機構
〒231-8315 神奈川県横浜市中区本町6-50-1
横浜アイランドタワー
Tel.045-650-0881 Fax.045-650-0889

編集・制作 / 株式会社博報堂
印刷 / 株式会社大分アロー印刷

財務内容や経営成績を報告する
投資家等説明会を開催しました

7月25日(金)、大手町サンケイプラザ(東京都千代田区)にて、借入金金融機関、債券投資家、アナリストなどを対象に投資家等説明会を開催しました。UR都市機構では年2回、定期的に説明会を開催しており、今回は65社97名の参加がありました。

説明会では、小川理事長から財務内容や経営成績についての報告のほか、全国での都市再生の取り組みの事例についても紹介しました。続いて飯原経理資金・業務企画担当理事から、平成19年度決算、経営改善計画の進捗状況、平成20年度の資金調達などについての具体的な説明を行いました。



会場には債券投資家や借入金金融機関、アナリストなど97名が集まった



財務内容や経営成績について説明する小川理事長

このようにIR活動を通じて機関投資家などの皆様に当機構についての理解を深めていただけるよう、今後も取り組んでまいります。なお、説明資料は、ホームページでご覧いただけます。

http://www.ur-net.go.jp/ir/info_toushika.html

子育て・高齢者世帯がUR賃貸住宅に入居しやすくなります

UR都市機構では少子・高齢社会の到来に対応するため、UR賃貸住宅の入居者の募集にあたり、子育て世帯や高齢者世帯などの方々を対象に、以下のとおり優遇措置の拡充・新設を行います。

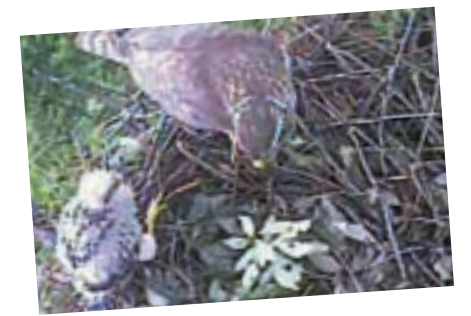
- 優遇対象世帯のうち、子育て世帯の対象を拡大(実施中)
- 新規賃貸住宅募集(抽選)における倍率優遇の拡充(実施中)
- 一部既存賃貸住宅募集(先着順)における優先申込期間の新設(平成20年12月以降予定)

これらの措置により、子育て世帯や高齢者世帯などの方々が、よりご入居しやすくなります。詳しくは、ホームページをご覧ください。

http://www.ur-net.go.jp/press/h20/ur2008_press_0829_chintaiyugusochi.pdf

里山の整備と人工巢の設置で
オオタカの営巣に成功しました

絶滅が危惧されるオオタカは、豊かな自然がなければ生きられません。UR都市機構では、地域住民と力を合わせて木津北地区の里山環境を改善。そしてこの夏、人工巢で生まれ育った雛が無事に巣立ちました。



人工巢での営巣に成功し
大きく育った雛が巣立ちました

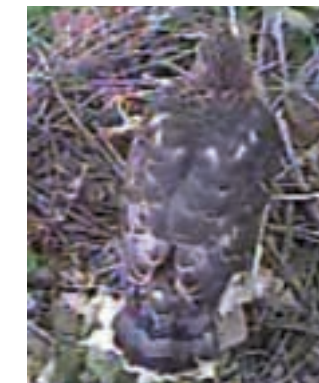
今年4月から5月にかけて、京都府木津川市の山林に設置した人工巢にオオタカが計3個の卵を産みました。そのうち1羽が無事に成長し、8月初旬に巣立ったことが確認されています。

京都府木津川市にある関西文化学術研究都市の木津北地区では平成5年から7年間、オオタカの営巣が継続して確認されてきましたが、平成12年から確認されなくなりました。一方、木津中央地区では平成15年にオオタカの営巣が確認され、造成工事を一部中断のうえ状況を見守ってきましたが、平成18年には営巣が見られなくなりました。UR都市機構では、平成15年度に事業中止を決定した木津北地区において里山環境の改善を実施。その結果、同地区の人工巢でオオタカの営巣を確認できたのです。

なお、人工巢に設置したビデオカメラによって営巣経緯を撮影することにも成功。専門家から貴重な生態の記録との高い評価をいただいております。



オオタカは人工巢で計3個の卵を産んだ



大きく成長した雛が自力で採餌している

…………… オオタカの繁殖経緯 ……………

時期	営巣活動
3月上旬	木津北地区での他個体威嚇などによるなわばりの誇示を確認
3月中旬	人工巢への巣材運搬、交尾を確認
3月下旬	人工巢での巣材整理を確認
4月23日	人工巢内での産卵(1卵目)を確認
5月1日	人工巢内での産卵(2、3卵目)を確認
5月28日	人工巢内にヘビが侵入
5月30日	1卵を親鳥が摂食(1卵消失) 1羽目が孵化
5月31日	2羽目が孵化 人工巢内にムカデが侵入 雛1羽が死亡し、親鳥が摂食
6月22日	雛1羽の成長を確認
7月4日	雛1羽が営巣木の隣木へ移り始めたことを確認
7月22日	雛1羽の自力採餌を確認
8月初旬	雛1羽巣立と判断

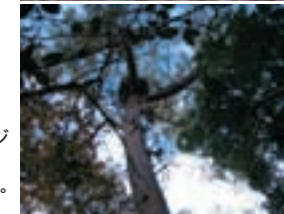
住民参加による再生活動で
荒れていた里山が甦りました

里山環境の改善に大きく寄与したのが、UR都市機構の呼びかけで平成16年から始まった、地元住民や付近のニュータウン住民による活動です。荒れ果てた放置竹林の間伐やピオトープ(生物群の生息場所)づくりを行う「鹿背山倶楽部」などの活動により、里山は少しずつ甦っていきました。

また、UR都市機構の所有地を対象に、雑木林などの間伐、耕作放棄田畑の除草を行い、オオタカの採餌環境の改善と飛翔空間の確保を実現。平成17年には木津北地区の樹木11カ所に人工巢を設置しました。

こういった一連の地道な取り組みがオオタカの生息環境を改善し、人工巢による営巣に結びつきました。

上 / 里山の再生を目指す鹿背山元気プロジェクトのメンバーによる森林整備の様子
下 / 木津北地区の計11カ所に人工巢を設置。周囲は重点的に森林整備を施した



—— オオタカとは? ——

オオタカはタカ目タカ科に属する中型の猛禽類(鋭い爪とくちばしを持ち、他の動物を捕食する鳥)で、成鳥の全長は雄が約50cm、雌が約60cm。食物連鎖の頂点に位置するためもとも個体数が少ない鳥ですが、森林開発などによってさらに減少し、2006年12月に公表された絶滅のおそれのある野生生物を示すレッドリストで、準絶滅危惧種に指定されています。

営巣が確認されない木津中央地区は
開発の再開を決定しました

今後、木津北地区では人工巢の経験を生かして、これまで通り住民や関係機関と連携して里山保全を進めていきます。

また、平成18年から平成20年までの3シーズンにわたって営巣が確認できない木津中央区では、政府が定めた猛禽類保護のマニュアル内容や専門家、関係者の意見を踏まえ、5年間中断していた開発工事の再開を決定しました。オオタカの営巣状況を見守りつつ工事を進め、平成23年にまびらきを行う予定です。

【詳細】<http://www.ur-net.go.jp/west/ootaka/index.html>